

令和7年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和7年7月18日（金） 午後1時30分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	友田 賢司	委員	加藤 正人
副委員長	唐木 義昭	委員	木曾野 真紀
委員	前沢 幸雄	委員	地引 尚幸
委員	山田 悟	委員	近藤 敏
委員	今井 恵子		

(欠席委員)

委員	高橋 久		
----	------	--	--

4 出席職員

教育長	鵜田 道雄	主幹	稲葉 理恵
生涯学習課長	長谷川 秀明	主幹	桐村 久美子
顧問	稲木 章宏	学芸員	鎌田 望里
館長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告

(1) 令和6年度郷土博物館事業報告について

(2) その他

7 議題

(1) 令和6年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

(2) 令和7年度郷土博物館の事業計画について

(3) その他

8 議事

友田委員長 では、報告(1) 令和6年度郷土博物館事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

友田委員長 報告(1) 令和6年度郷土博物館事業報告について、何か質問ありませんか。

木曾野委員 資料をたくさん書いていて大変だったと思うが、同じ話が何度も出てくるので、もう少し資料を整理できないか。

事務局 資料の簡略化については努力したい。

友田委員長 では、議題(1) 令和6年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

友田委員長 議題(1) 令和6年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、何か質問ありませんか。

唐木委員 メディアでの取り扱いについて、7月4日の地域新聞、9日の読売新聞で当館の企画展が紹介されている。他にも紹介されているようなら、おしえていただきたい。報道機関へのお知らせはどのようにしているのか。このようなPRは博物館として有効だと思うので、ぜひ続けてもらいたい。

事務局 今紹介があった2紙の他に、東京新聞・毎日新聞に掲載していただいた。毎

日新聞についてはWeb版にも掲載されているが、内容が面白く外国人受けもするというので、英語のWeb版にも掲載された。

報道機関へのPRは、毎月の定例記者会見で、平等に多くの報道機関に情報が伝わるようにPRしている。

加藤委員 この評価についてであるが、前回もお願いしたと思うが、誰が評価したのかというところを明確にしてもらいたい。

西原館長 資料の17ページにも目標値の設定の考え方というのを示しているが、まず、誰が見ても変わらない客観的な数値目標を立てて自己評価を行い、この博物館協議会の中で細かく資料を出して、それと見比べてできているか判断できるようにしている。

加藤委員 例えば、教育委員会を通してやっているのか、生涯学習課が参加しているのかといったところである。

鴫田教育長 今、行政機関に求められている点検・評価というのは、第一に自己評価を行い、ここに記載されているものについて、今後の対応については博物館の職員が相談しながら、担当が原案を書くという形で、自己評価を行う。次にこの博物館協議会が外部の方なので、第三者評価という位置づけになる。ここで、こちら側の自己評価について、この評価少し甘いのではないか、または少し厳しくないか、といったところを第三者に評価していただいたものを、この後教育委員会議で報告させていただく。

目標値の取り方だと思うが、今回二重丸がダントツに多いわけであるが、もう二重丸がついたところについては、さらにそれを上回る目標値を設定するといったところだが、すべてを右肩あがりであればいいかというところではないと思う。中には目標値が1件とか1回とかいうのもあるので、これを2回3回とあげていくのが適切なのか等、外部の皆さんに見ていただければと思う。

今井委員 目標値とあるべき姿というものをよく読んでいくと、博物館職員がどんなことをしているのか、どうあるべきだと思っているのかということが、とても具体的によくわかったが、もっと砕いて中学生や高校生にも同じことを感じてもらうためには、まだ工夫が必要かと考える。それから、評価を数字ですということが確かにある意味簡単で、グレーな部分をなしにしてこれは10点だからそれは5点だからということできっちりできやすいが、自分も昔評価をした

ことがあり、点数つけて数字に落とすこともやったが、目標内容の中には、これ数字で測っていいものかなと思われるものが何件かあったように見える。アンケートの回数にしても、満足以上の割合という風になると、なるほど、アンケートの評価は高かったんだなと分かるが、インスタグラムの更新を何回したという数字は、それによってみんながどういう風に思ったのかというのは伝わらない。目標やあるべき姿というのは、変わることがあってもよいのでは。

西原館長 基本的に目標の考え方については、随時更新という考え方がある。先ほどのインスタグラムの更新ってあくまで行為であって、行為を目標にしているのかという考え方もいろいろあるが、35のあるべき姿を設定しているが、そもそも35で良かったかというのを今、考えている。もともと30というのがベースにあって、もっと少なくてもっとコンパクトでもいいのではと。通年見ることによって、この評価の仕方自体も良し悪しが出てきて、必要な部分なども見えてきたところである。9年度のところで1回検討しようとしているので、またその時点で今のご意見などを反映させていただきながら修正したい。

毎年、最終的にはホームページでちょっと体裁を変えて読み物風にしたものを公開している。ご指摘のあったとおり、中学生・高校生でもわかるようにというのは、この先見据えていきたい。

木曾野委員 同じ35の展望について、6年度の評価、7年度の目標、25ページからの一覧にしたものがあるが、1つにまとめてほしい。今の資料だと35項目を3回見てやらなければならない。

インスタグラムはいつからやるという話だったか、インスタグラムがあることは、博物館のサイトをざっと見てもわからなかった。検索してみたら、Xの方は6月から始めたようであるが、Xについては目標にしていないのか。Xで、開催中の企画展の今日はこの資料、次の企画展の準備状況、週末のイベント案内といったように開館日1日に2回更新するといったように、インスタグラムはログインしないと見られないが、Xは検索に引っかかれば見てもらえるので、効果が高いような気がする。目標自体は無理な目標を立てていても仕方がないので、わかりやすく数字が出て達成可能なものにした方がいいと思うが、インスタグラムよりはXの方がよいと思える。

事務局 インスタグラムは、フェスティバルの宣伝を目的に6月から開設した。こちらはまだ慣れていないので、試用期間といった感覚で行っている。これから、インスタグラムを始めましたというのを一般の人に周知していきたい。

Xは、インスタグラムと同様、6月1日から開設している。回数は多ければ多いほど見てくれる方は増えるとは思いますが、担当は職員持ち回りで行っていくのでできる範囲でやっていく方向である。

加藤委員 インスタグラムはどれだけヒットしたかというのが非常に難しい。自分も1年くらいやっているが、どう見てくれているのかというのは難しい。だから、時間はかかると思う。

ほぼ毎日、今日の博物館みたいなものをどんどんあげていけば、そのうちには続けて見る人が増えると思う。

友田委員長 では、令和7年度博物館の事業計画について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

唐木委員 企画展のテーマはどのように決めているのか。話題を呼ぶテーマの1つに大河ドラマとの関連がある。浮世絵をテーマとした企画展が今年は多く見られる。当館で注目された企画展に、「井出先生の写真館」がある。好評で期間も延長したと聞いている。生涯学習課の方で、飽富神社で説明をする企画があったが、神社の中で刀の説明があったりしておもしろかった。寺の見学などもやってもらいたい。3つ挙げたが、できるだけ市民の皆さんが参加したいと思うものをやっていただきたい。次に、学校との関係であるが、博物館はいろいろと学校に対して支援を行っていますね。では、学校からのその支援に対しての応えは何かあるのか。例えば、連携していろいろな学習会をやって、その成果を博物館で公開したということはあるか。いすみ市郷土資料館では大多喜高校、長生高校の絵画作品展というのを開催していた。地域連携としていい結果だったのではないかと思う。同様に何か連携して行ったのであれば、成果を博物館で発表してもいいのではと思う。

事務局 企画展のテーマについては、学芸員の専門がそれぞれあるのでその専門にあった内容で考えるというのが前提である。当館では原則としてゴールデンウィークから夏にかけての企画展Ⅰ、秋の企画展Ⅱの2回、企画展を開催している。この年間2回の企画展を同じボリュームで実施するのは、予算的にも労力の面でも負担が大きいため、ここ数年は企画展Ⅰの方は館蔵資料を中心とした内容にしている。それについては、借用をしないことでそれにかかわる費用や事務の手間を省くことができるという理由もあるが、当館でも非常に多くの資料を

有しており、古文書の場合は9万点以上の資料があるが通常は保存用の封筒に入れ、保存箱に入れてただ収蔵庫に眠っている。それらを公開するというのも博物館の義務であり、企画展Ⅰは館蔵資料を活用するという位置づけで行っている。先ほど唐木委員からお話のあった「井出先生の写真館」も現在開催中の「村のくらしと一大事」も収蔵資料を活用するという中でテーマ決定であった。昨年度の出羽三山も収蔵資料を中心に展示した。また、大河ドラマは直接は意識していなかったが、「村のくらしと一大事」は江戸時代がテーマなので、大河ドラマとの関わりで見えてくれる人もいる。

学校との関連はご指摘のとおり、学校の校外学習利用に対して博物館が協力する、あるいは学校へ出向いてのアプローチ、それが中心となっている。それに対して学校からは子どもたちの書いたお礼のおたよりが届く。それを博物館で掲示して、学校がこれだけ利用しているというのを来館者に見てもらっている。

高校生については、博物館で学校の学習にも協力しているし、ミュージアムフェスティバルではボランティアとして協力してくれたり、吹奏楽部やジャグリング部の出演という形で協力してもらっている。

事務局

補足であるが、袖ヶ浦高校の方では、昨年から新たな取り組みがあり、市役所の職員も協力して学習を進めている。生徒からいろいろ質問を受けて、それに答えるということを探求学習の一環としてやっているが、生徒が関心を持ったものについて、深掘りしていくような形でやっている。学校の方でも発表するチームを選抜するという形でやっているが、残念ながら昨年度は博物館に関わってくれたチームが発表に至らなかった。博物館に関わってくれたチームが発表するようであれば、機会があればそれを博物館でも発表ということができれば理想だと思う。

前沢委員

学校の方からすると、この袖ヶ浦の郷土博物館は非常に敷居が低いというか、学校にとって教育課程に位置付けられた施設であると感じている。今年度の計画にもあるとおり、社会科の勉強が中心であるが、学校にはかなり協力していただいている。先ほどもお礼の手紙の話があったが、学校の中では「〇〇新聞」のようなものは作成して掲示している。こういったものを博物館に提供して掲示してもらおうというのはできると思った。一方で博物館の方でもこれだけ近隣市で見ても学校の教育課程の中に位置づけられている学校は少ないと思うので、何らかのアピールはもっとしていいと思うので、学校の方からも資料提供などできることはしたいと考える。

加藤委員 学習の話で言えば、途中経過でもいいからホームページの中でどんどん発表すると良いのではないかと。

展示の方では、私も写真の展示会等、いろいろやっているが、これも人が喜ぶものを展示するのか、自分の中で訴えるものを展示するのか非常に難しいところがある。人目を引くということでは先ほども話のあった大河ドラマには相乗効果があると思う。今やっている企画展も自分は非常におもしろいと思う。

地引委員 たくさん事業をされていて、頭が下がるくらい。自分も学芸員だったが、僕は自分の研究が枯渇してしまった。皆さんは大丈夫だろうかというのが1つ。あと1つは、袖ヶ浦駅の北口は再開発がされて商業施設もたくさんあり、新しく転入した方もたくさんいらっしゃる。そういう方たちと古くから袖ヶ浦に住んでいた方たちとの交流を、博物館は今後どうしていくのかな。なぜかというと、ここはたくさんの方の土台を持っている。以前、5地区に分けた民俗調査報告書を刊行している。市町村であれだけのものを作ったというのはすごいことである。あの本はある時代を切り取った素晴らしい記録である。あれをベースに、袖ヶ浦市の民俗文化として、新しく住民になられた方にも袖ヶ浦を理解してもらうために活用したらどうか。

西原館長 調査研究に専念できる時間はほとんどないが、展示を目標に調査研究をしてそれが蓄積されているというのが現状。個人の研究テーマは設定しているので、その中でできる範囲のことをしている。新しく住民になった方と古くから住んでいる方との交流は、これまで特に何かできているわけではないが、インスタグラムやXを始めたので、これを見た方が新しく博物館に来るといったところから広がることに期待する。

唐木委員 以前、蔵波城の存在が話題になった。私は勝浦の出身で、勝浦にも城があり、そこは今公園になっていて、勝浦城跡という碑がある。ここには城が攻められた時に城主の娘・お万の方が城から布を垂らして断崖絶壁を逃げた「お万の布さらし」という逸話がある。お万の方は後に徳川家康の側室となり、水戸黄門はお万の方の孫にあたる。地元ではある地域を示す時に「お万の方のほう」とか、「お万の方の辺り」といった言い方をすることがあるので、この方は地元では大変慕われていたのではないかと考えた。袖ヶ浦ではそのような逸話はないのか。

加藤委員 逸話はたくさんある。何年か前に市民学芸員で企画展をしたのですが、維新の一時期、大奥にいた老女が横田に来たという話だとか、平川の方にはまだ隠れた話がある。そういうのをまとめるのもよいのではないかと。

近藤委員 博物館で行っているレファレンスの内容を記録しておいて、よくある質問ということでホームページに載せておくともよいのではないかと。企画展等は冊子にすれば記録が残るが、レファレンス概要も回答例を記録しておくとも専門外の学芸員でも答えられるようになる。この博物館も40年間の蓄積があるので、さまざまな回答の蓄積を検索できるようにしておけば活用できる。マンパワーがいるとは思いますが、今後電子化することを勧めたい。

加藤委員 現状のマンパワーに問題があると思うが、ボランティアに手伝ってもらうなどして集約して、ホームページに掲載するとよいだろう。

事務局 レファレンスの記録はとってあるので、まとめて公開することは可能である。

友田委員長 他、よろしいでしょうか。それでは、議題（3）その他について、事務局の方から何かありますか。

事務局 議題（3）その他 特にありません。

友田委員長 それでは、閉会とします。
みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

事務局 慎重審議ありがとうございました。令和7年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

令和7年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和7年7月18日(金)
午後1時30分から3時
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 報 告

(1) 令和6年度郷土博物館事業報告について・・・・・・・・・・ 1

(2) その他

5 議 題

(1) 令和6年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について・・・・・・ 17

(2) 令和7年度郷土博物館の事業計画について・・・・・・・・・・ 33

(3) その他

6 閉 会

第2 2期袖ヶ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏 名	選 出 区 分	備 考
まえざわ ゆきお 前沢 幸雄	学校教育 奈良輪小校長	2期目
やまだ さとる 山田 悟	社会教育 文化協会	1期目
ともだ けんじ 友田 賢司	社会教育 子ども会育成会	3期目
いまい けいこ 今井 恵子	社会教育 郷土博物館友の会	2期目
かとう まさと 加藤 正人	社会教育 市民学芸員	2期目
きそ の まき 木曾野 真紀	家庭教育 保育ボランティアひよこ	2期目
じびき ひさゆき 地引 尚幸	学識経験者	2期目
こんどう さとし 近藤 敏	学識経験者	2期目
からき よしあき 唐木 義昭	学識経験者	4期目
たかはし ひさし 高橋 久	学識経験者 公募委員	1期目

任 期 令和7年2月1日から令和9年1月31日まで

報告（１）令和６年度郷土博物館事業報告について

１ 令和６年度の経営方針及び重点施策

（１）経営方針

郷土博物館では、第３期教育ビジョンの基本目標である「未来を創る 心豊かで いきいきとした人づくり」の実現に向け、生涯学習活動の機会や場を提供し、地域の人づくりや絆づくりに貢献するとともに、郷土の歴史と文化を学び後世に伝える活動を推進します。

そのため、郷土博物館は、「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」に示す４つの項目を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進するとともに、その担い手である市民学芸員・友の会員をはじめとした人材の育成にも力を入れて参ります。

引き続き、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

（２）重点施策

①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。特に、上総掘りの技術については、技術の伝承と保存に努めます。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

ア 調査研究

- ・袖ヶ浦市の弥生時代・古墳時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・旧石器時代に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査 等

イ 地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
- ・収蔵保管資料の適正な管理
- ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ホームページによる情報発信
（事業の目標値：情報メディアによる資料公開 年３回）
- ・古文書等表題データベース作成
- ・埋蔵文化財写真デジタル化

- ・『袖ヶ浦市史研究』第22号刊行

②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場として、市民の多様なニーズを考慮しながら、企画展や各種イベントを計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できる事業を企画し、地域の学習力や地域文化の向上に貢献します。

博学連携事業は小学校の学習指導要領に基づき、更なる充実を図るため、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、博物館活動のパートナーである市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

ア 展示更新推進事業の展開

・企画展2回 **令和6年度重点取組**

- i 企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」
- ii 企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」

(事業の目標値：企画展及び常設展示への収蔵資料活用 年2件)

企画展開催時の関連事業実施 企画展1回につき2回)

- ・常設展示の部分更新
- ・旧進藤家住宅での各種展示 (事業の目標値：年1回)
- ・ロビー展示・ミニ企画展等の開催
- ・万葉植物園の活用 (市民学芸員協働実施) **令和6年度重点取組**
- ・内房総アートフェスへの協力 (旧進藤家住宅展示・アクアラインなるほど館展示・上総掘り関連展示・ワークショップへの協力)

イ 教育普及事業の推進

- ・考古学専門講座の開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会等諸団体との協働による事業の開催
- ・夏の子ども向けイベントの開催
- ・市民学芸員イベントの開催

ウ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外) (事業の目標値 年15件)
- ・資料の貸出 (事業の目標値 年6件)
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成・更新・活用
- ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)
(事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件)
- ・山野貝塚体験型プログラムの開発
- ・学校図書館との連携促進 (物流システムの活用)

エ みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携（博福連携：博物館と福祉施設等の連携）
- ・多言語対応の推進
- オ ボランティアの養成と支援
 - ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
(事業の目標値：市民学芸員自主企画事業の実施 年3回以上)
 - ・市民学芸員フォローアップ研修の実施と市民学芸員の生涯学習サポート
(事業の目標値：市民学芸員研修の実施 年2回以上)
 - ・市民学芸員養成講座の実施と新規市民学芸員の育成 令和6年度重点取組
(事業の目標値：新規市民学芸員2人以上)
 - ・地域史掘り起こし研究への支援
 - ・グループ活動の支援
 - ・館蔵資料整理
 - ・協働による企画展の開催（企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」）
- カ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援
 - ・活動場所の確保
 - ・資材調達
 - ・活動PR
- キ 郷土博物館友の会活動の支援
 - ・『友の会だより55・56号』の発行
 - ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)への支援
 - ・友の会グループ主催イベント（新春凧揚げ会、盆栽展示など）への支援

③市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設について定期的に点検を実施し、状況を把握します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理し、安全な学習環境を整えます。

施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・IPM（日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや虫等の有害生物から防除する方法：総合的病害生物管理）の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
本館浄化槽チェッカープレート交換修繕

④博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

ア 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動（出前講座・展示・現場出張サービス）
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館等との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

イ 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

ウ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会（令和6・7年度役員）、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

エ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

オ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

カ 庁内関係各課との連携

- ・生涯学習課と連携し、文化財情報の共有や協働事業の実施により相乗効果を高める。
- ・生涯学習課と連携し、山野貝塚の整備計画の検討及び山野貝塚展示室の充実を図るための検討を行う。
- ・公民館・図書館との連携

3. 郷土博物館事業の記録

①博物館協議会

博物館法第20条に基づいて博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等について審議するとともに、博物館活動の指針『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』に基づき、昨年度の郷土博物館の運営に関する点検と評価を実施しました。

博物館協議会 会議開催状況

回	日程	内容	参加者
1	7月18日(木)	・令和5年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について ・令和6年度郷土博物館の事業計画について	8名
2	11月15日(金)	・博学連携事業の現状と今後について ・博物館施設の現状について	10名
3	2月26日(水)	・博物館協議会委員長・副委員長の選出について ・令和6年度郷土博物館事業の成果と課題について ・令和7年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和7年度事業計画(案)について	9名

②博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。また、千葉県博物館協会会長として、協会の運営に携わりました。

・関東地区博物館協会研修会

11月15日(金) 第2回「文化財の保存環境管理の今とこれから～文化財用燻蒸剤の変容を受けて～」

講師：公益財団法人文化財虫菌害研究所 研究員 岩田泰幸氏

・千葉県博物館協会研修会

1月10日(金) 「博物館・美術館における地域連携の在り方」

講師：千葉県立美術館 館長 貝塚健氏

・君津地方公立博物館協議会研修会

9月11日(水) 第1回「鹿野山神野寺所蔵資料及び境内の拝観、情報交換」

12月25日(水) 第2回「地域造形資源のデジタルデータの記録とその活用」

講師：千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート

教授 植田憲氏

助教授 青木宏展氏

2月7日(金) 第3回「袖ヶ浦市吉野田の下総層群から産出した化石群について」

講師：千葉県立中央博物館

企画調整課長兼研究課長 伊左治鎮司 氏

- ・全国博物館大会 11月27日（水）・28日（木）

全国博物館フォーラム「地域の視座から考える博物館と文化観光」

分科会2「市民参加のしくみ～元気な市民がまちを活性化させる～」

シンポジウム「文化観光と博物館～文化の魅力を伝えるために博物館にできること～」

③調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進め、調査の成果を展示や教育普及事業等に活用することができました。

- ・袖ヶ浦市の縄文時代・弥生時代に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・旧石器時代に関する研究
- ・中世荘園に関する調査
- ・古代の植物利用に関する調査

④教育普及事業

調査研究の成果を公開活用し、地域資料への学びを深めるため各種講演会・講座の充実を図りました。また、ミュージアム・フェスティバルをはじめ、博物館を気軽に利用していただくための取組を実施することができました。

★博物館講座「袖ヶ浦学」（5回） 歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。	4月～2月	
第172回（友の会記念講演会）「密着！ちばの生物多様性」 講師：千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター 下稲葉さやか 氏	4月21日（日）	30人
第173回「袖ヶ浦の石造物－子安信仰を中心に－」 講師：袖ヶ浦市郷土博物館 稲木章宏	9月21日（土）	22人
第174回「チバニアンと房総半島と袖ヶ浦」 講師：篠崎貞 氏	12月14日（土）	37人
第175回「袖ヶ浦の外来種－増え続ける侵入者たち－」 講師：袖ヶ浦市郷土博物館 水流拓馬	1月18日（土）	20人

第176回「そではく冬のバードウォッチング2025」 講師：千葉市野鳥の会 会長 大島健夫 氏	2月15日(土)	25人
合計		134人
★第27回ミュージアム・フェスティバル コロナ禍以降増加した若い親子連れに向けたPRを拡充したほか、きぐみのつみきや篠笛体験会など新たな体験を取り入れました。例年好評のジャグリングや、勾玉づくり、火起こし体験、たたき染め等博物館ならではの体験を実施し、多くの参加者が訪れました。	6月8日(土) 6月9日(日)	2,740人
★自然と歴史の散策会(2回) 県内外の史跡・博物館等を見学し、自然や歴史に親しむとともに、市民の交流と学びの場として友の会と共催で事業を展開しています。	5月・12月	
第1回「JAXA つくば宇宙センター・産業技術総合研究所地質標本館見学」 ※第1回市民学芸員フォローアップ研修と共催	5月22日(水)	17人 ※友の会会員参加者数
第2回「檀特山小松寺・東光院石堂寺見学」	12月10日(火)	23人
合計		40人
★夏の子ども向けイベント		
夏休みジュニア学芸員体験「上池いきもの調査隊！」 講師：袖ヶ浦市郷土博物館 水流拓馬	7月27日(土)	16人
★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)	通年	
長浦公民館令和6年度わんぱく教室春編「水辺でガサガサ生き物観察会」	5月25日(土)	14人
木更津市公民館連携Bブロック事業「一地域の魅力発見！岩根公民館発一てくてく散歩」 テーマ：いにしへの岩根～石造物とお堂を訪ねて～	6月1日(土)	27人
根形公民館第1回地域再発見講座『出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰』講話・展示解説』	6月13日(木)	19人
市民会館・平川公民館第2回乳幼児家庭教育学級「自然とふれあう 虫の観察会」	6月16日(日)	46人
木更津市八幡台公民館主催「八幡台郷土歴史講座」 テーマ：西上総の熊野信仰と出羽三山信仰	6月20日(木)	25人

令和6年度第1回国史跡山野貝塚現地見学会	6月22日(土)	22人
市民会館第2回女性セミナー「万葉植物園散策及びたたき染め体験」	6月26日(水)	26人
総合教育センター第16回夏休み調べ学習相談会【歴史】【虫・水生生物】	7月24日(水)	9人
袖ヶ浦公園管理組合動植物観察会	7月26日(金)	18人
千葉県文化財保護協会第2回文化財講演会「千葉県の横穴墓ー古墳時代後期の墓制ー」	10月20日(日)	72人
水土里ネット千葉県大会視察(ひらおかの里農村公園上総掘り説明)	10月21日(月) 10月22日(火) 10月23日(水)	336人
平岡公民館令和6年度第5回ひらおかシニアセミナー『ウォーキング「川原井地区文化財探訪」』	11月12日(火)	16人
富来田公民館「富来田ふるさと講座」第9回学習会「木食観正について」	2月20日(木)	17人
合計		645人
★そではく考古学講座 弥生時代研究最前線 (5回・連続講座)	9月～1月	
第1回「袖ヶ浦から出土した弥生時代の青銅器」 講師：郷土博物館 西原崇浩	9月29日(日)	23人
第2回「本当はすごい！ 袖ヶ浦の古墳時代～」 講師：千葉大学大学院人文科学研究院教授 山田俊輔 氏 ※企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連講演会と共催	10月13日(日)	27人 ※考古学講座参加者人数
第3回「よそからやってきた弥生土器」 講師：公益財団法人 千葉県教育振興財団 渡邊修一 氏	11月30日(土)	28人
第4回「神奈川県綾瀬市神崎遺跡資料館・神崎遺跡史跡公園見学」	12月22日(日)	22人
第5回「発掘された袖ヶ浦の弥生時代ー内陸部の文脇遺跡・下向山遺跡と海岸部の山王台遺跡・金井崎遺跡・根崎遺跡ー」 講師：郷土博物館 西原崇浩	1月25日(土)	22人

合計		122 人
★その他各種普及事業 企画展関連講座のほか、市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催しています。	通年	
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業『100 人先生の 10 本ノック 「上総掘り先生」 講師：上総掘り技術伝承研究会副会長 藤代かおる 氏	4 月 6 日(土)	18 人
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業『100 人先生の 11 本ノック 「リサイクルビート先生」』 講師：ドラム・パーカッション奏者 塩谷亜弓 氏	4 月 6 日(土)	42 人
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業「紙パイプトンネルをつく ろう」(第 1 回) 講師：アーティスト 東弘一郎 氏	4 月 21 日(日)	28 人
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業「紙パイプトンネルをつく ろう」(第 2 回) 講師：アーティスト 東弘一郎 氏	4 月 21 日(日)	31 人
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業「モノの記憶で街をつくろ う」(第 1 回) 講師：アーティスト キム・デボン 氏	5 月 5 日(日)	20 人
千葉県誕生 150 周年記念事業 百年後芸術祭ー内房 総アートフェス関連事業「モノの記憶で街をつくろ う」(第 2 回) 講師：アーティスト キム・デボン 氏	5 月 6 日(月)	27 人
企画展 I 「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」展示解説 会 (第 1 回)	5 月 4 日(土)	15 人
企画展 I 「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」展示解説 会 (第 2 回)	6 月 8 日(土)	25 人
企画展 I 「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」関連講演	6 月 15 日(土)	57 人

会「私の山伏修行と出羽三山」 講師：出羽三山神社峰中講員・山伏 鈴木恒久（智秀）氏		
企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」関連移動講座『「出羽三山信仰の足跡をたどる」バスツアー』	7月6日(土)	24人
企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」展示解説会（第3回）	7月13日(土)	22人
盤洲干潟を知ろう！干潟の生き物観察会 講師：盤洲干潟をまもる会	9月28日(土)	荒天中止
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」展示解説会（第1回）	10月5日(土)	14人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連講演会「本当はすごい！袖ヶ浦の古墳時代」 講師：千葉大学大学院人文科学研究院教授 山田俊輔氏 ※第2回そではく考古学講座と共催	10月13日(日)	58人 ※考古学講座参加者除く
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」展示解説会（第2回）	11月3日(日)	12人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」展示解説会（第3回）	11月24日(日)	16人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連事業『古墳スペシャル体験会「いつもと違う勾玉づくり』	11月30日(土)	17人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連事業『古墳スペシャル体験会「古墳NOマイバッグづくり』	11月30日(土)	12人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連事業『古墳スペシャル体験会「古墳ケーキを作ろう～古墳の構造を学ぶ～」』 講師：君津市小櫃公民館 藤平裕子氏	12月1日(日)	11人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」関連事業「古墳見学会」	12月7日(土)	22人
合計		473人
★上総掘り技術伝承研究会の活動支援 博物館水のふるさと内で掘削等の活動をしていま	通年	会員16人

す。定例活動に加えて、ミュージアム・フェスティバルにおける掘削体験や、ひらおかの里農村公園のアシバ修理、上総掘りに係る各種問い合わせへの対応等を行いました。		
<p>★友の会活動への支援</p> <p>8グループ(凧の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画葉月の会)が自主的に活動しています。</p> <p>博物館との協働事業では、自然と歴史の散策会において新たに市民学芸員との交流を図ったほか、恒例の凧揚げ会を行いました。また、会報「友の会だより」55・56号を発行しました。</p>	通年	会員 61 人
【友の会協働事業】袖ヶ浦市郷土博物館友の会「凧の会」第19回新春凧揚げ会	1月19日(日)	72人
合計		149人

⑤地域資料管理活用事業

館蔵資料（古文書等）の台帳作成及び整理や閲覧対応（デジタル公図を含む）のほか、収蔵資料の保存修復処理及び埋蔵文化財写真のデジタル化の準備を行いました。収蔵環境の維持と整備にも努め、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備の実施に加えて、館内環境管理や資料保存に係る最新の知見を習得するため、「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を履修しました。また、会計年度任用職員を雇用し、収蔵庫の資料整理を行いました。さらに、これら博物館の収集・収蔵資料の整理・情報化の成果と、市民による調査研究等を発信するため、『袖ヶ浦市史研究』第22号を刊行しました。

このほか、資料の活用や保存等に係る知見の習得及び情報交換のため、千葉県史料保存活用連絡協議会の講演会へ参加したほか、同協議会発行物『千葉史協だより』へ寄稿しました。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復（31点）
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究
- ・企画展開催に伴う出羽三山信仰関係資料や古墳関係資料等の調査研究
- ・収蔵資料のホームページでの公開
- ・ホームページの更新、SNSによる情報発信
- ・埋蔵文化財写真のデジタル化準備

- ・古文書等表題データベース作成
- ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）
 - 1月20日(月)～1月24日(金) 環境管理（温湿度、空気環境、照明等）、博物館 IPM 等
- ・千葉県史料保存活用連絡協議会講演会
 - 6月7日(金) 「東京大学史料編纂所の史料保存と活用について」
講師：東京大学史料編纂所 高橋 慎一郎 氏

⑥博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図りました。市内小学校3年生の昔の生活体験、6年生の歴史体験といった校外学習のほか、校外学習の実施が難しい学校や、総合的な学習の時間に対応したアウトリーチを実施しました。博物館での体験と校区の史跡散策を併せたプログラムの作成や、児童数の増加が続く海側地区を中心とした小学校におけるアウトリーチの内容拡充など、学校のニーズに応えた体験学習の実施を図りました。また、体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能しています。

また、職場体験及び博物館実習生の受け入れを行い、博物館における日常業務のほか、教育普及事業の運営や展示の企画等のプログラムを実施しました。さらに、千葉県立袖ヶ浦高等学校との連携では、探求学習「袖ヶ浦市魅力度アッププロジェクト」において講師として、生徒の企画立案に協力しました。千葉経済大学とは相互に講師を派遣し、大学博物館へ資料を貸出す等、活発に交流することができました。

校外学習支援（市内外小学校・市内中学校）	通年	市内外の小学校 16回 785人
実物資料貸し出し	通年	7回 71点
学習相談	通年	3回
教員対象研修の実施	通年	0回
学校向けワークシートの作成・活用	通年	5回
アウトリーチ活動(出前展示・出前授業)	通年	6回 841人
学校図書館との連携促進（物流システムの活用）	通年	3回
職場体験受入	通年	1校3人
博物館実習生受入	通年	1校1人
インターンシップ受入	通年	1校1人

⑦展示更新推進事業

市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展2回・ロビー展5回を開催しました。企画展Ⅰでは、市民にとって身近な「出羽三山信仰」をテーマに来館者からの情報で展示内容が成長する双方向性のある展示を目指し、企画展Ⅱはこれまであまり知られていなかった袖ヶ浦の古墳時代にスポットを当てた展示としました。屋外展示施設となる旧進藤家住宅では、友の会盆栽愛好会による盆栽展や市民学芸員によるひな人形展示などで施設の有効活用を図りました。

さらに、千葉県誕生150周年事業「百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス」においては、作品の設計及び展示や、関連イベントの開催について、昨年度から引き続き協力しました。

★常設展 本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ヶ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとししました。山野貝塚展示室は一部展示内容の更新を行いました。 また、屋外展示施設のアクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の有効活用を図っています。万葉植物園における展示の充実と利便性の向上のため、昨年度から歌意と植物の解説及び読み取り用のQRコードの作成を進めています。	本館	24,936人
	アクアラインなるほど館	324人
	旧進藤家住宅	13,508人
合計		38,768人
★特別展・企画展		
企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」	5月3日(金・祝) ～7月15日(月・祝)	8,471人
企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典～袖ヶ浦の古墳時代～」	10月5日(土) ～12月8日(日)	4,630人
合計		13,101人
★ロビー展示・ミニ企画展等		
「あの夏を忘れないー「井出先生の写真館」に、残された人びとの想いー」	8月15日(木)～ 9月30日(月)	1,458人
令和6年度 博物館実習展示「須恵器と日本書紀」	8月2日(金)～ 9月29日(日)	1,691人
友の会「盆栽愛好会」秋季盆栽展(旧進藤家住宅)	10月18日(金)～	233人

	10月20日(日)	
友の会「凧の会」大凧ロビー展示	12月26日(木)～ 1月31日(金)	1,495人
市民学芸員自主企画展示「そでがうらのおひなさま」 (本館ロビー・令和5年度継続事業)	4月1日(土)～ 4月7日(日)	1,037人
市民学芸員自主企画展示『はくぶつかんの「端午の節句」』(本館ロビー)	4月14日(火)～ 5月12日(日)	3,332人
市民学芸員自主企画展示「はくぶつかんで七夕まつり」	6月30日(日)～ 7月7日(日)	471人
市民学芸員自主企画展示『古民家で十五夜』(旧進藤家住宅)	9月14日(火)～ 10月20日(日)	61人
市民学芸員自主企画展示「はくぶつかんのひなまつり」	2月8日(土)～ 3月30日(日)	3,846人
合計		13,624人

⑧市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。

新規市民学芸員の獲得のため、継続して市民学芸員養成講座を開催し、新たに5名が登録しました。また、既存の市民学芸員の意識向上と学びサポートのため、フォローアップ研修を実施しました。さらに、ワーキンググループの活動成果を、令和6年度企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」において公開、博物館と協働で展示を実施しました。

★市民学芸員養成講座 (11回・連続講座)	4月～2月	
第1回「オリエンテーション/教育普及事業・博学連携事業と市民学芸員活動について」	4月20日(土)	6人
第2回「小学校6年生体験学習スタッフ養成講座」	5月18日(土)	10人
第3回『博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」』	6月22日(土)	6人
第4回「IPMについて学ぼう」※博物館実習と合同開催	7月20日(日)	11人
第5回「そではく大解剖！そではく辛口採点会」	8月24日(土)	5人
第6回「博物館の調査研究とフィールドワークの心得」	9月14日(土)	4人
第7回「フィールドワーク実習(石造物野外調査)」	10月19日(土)	6人
第8回「よその博物館を見に行こう」	11月9日(土)	13人
第9回「小学3年生体験学習スタッフ養成講座」	12月14日(土)	6人

第10回「博物館の資料整理を体験しよう」	1月18日(土)	4人
第11回「修了式・記念講演会」 ※第2回フォローアップ研修と合同	2月23日(日)	18人
合計		89人
★市民学芸員フォローアップ研修(3回)	10月、2月、3月	
第1回『移動研修「地球と宇宙を考える」 JAXA 筑波宇宙センター・産業技術総合研究所地質標本館(茨城県つくば市) *第1回自然と歴史の散策会と合同	5月22日(水)	18人 *市民学芸員参加者数
第2回「江戸時代の山岳信仰ー出羽三山を事例にー」 講師：菅根 幸裕 氏(千葉経済大学 教授)	2月23日(日)	18人
第3回ボランティア交流と展示見学 市原歴史博物館(市原市能満)・千葉市埋蔵文化財調査センター(千葉市中央区南生実町)	3月12日(水)	12人
合計		48人
★自主企画事業、外部事業への参加等 ※企画展示は⑦展示更新推進事業に記載		
市民学芸員自主企画イベント「万葉こどもまつり」	11月23日(土)	532人
正月お飾り作り	12月24日(火)	6人
合計		538人
★定例会、事業協力、グループ活動等		
全体会議・定例会 ※7月、11月、12月は中止	4月20日(土)	15人
	5月25日(土)	14人
	6月30日(日)	15人
	8月31日(土)	12人
	9月28日(土)	8人
	10月27日(日)	12人
	1月11日(土)	14人
	2月22日(度)	18人
	3月23日(日)	15人
体験学習協力 ※14回実施分の延べ人数	6月～2月	70人
万葉植物園整備(万葉グループ活動)	通年	会員数 9人
地域の史跡・文化財調査(郷土を学ぶ会活動)	通年	会員数

		6人
季節あそびの会	通年	会員数 3人
企画展ワーキンググループ	8月～3月	参加者延べ 人数18人

⑨施設管理事業

博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理(修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等)を行いました。また、執務環境を整え、収蔵庫内の資料を適正に管理するため、学芸員室系統及び第三収蔵庫の空調機を更新しました。日常的な展示環境・収蔵環境の管理としては、年間を通してIPM(総合的有害生物管理:日常的に収蔵環境を管理し、薬剤だけに頼らず文化財等をカビや文化財害虫等の有害生物から防除する方法)の理念に基づき、文化財害虫の駆除や侵入防止用テープの設置のほか、発生源になりうる個所を中心とした清掃作業等を実施しました。

さらに、博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月1回の安全点検と、消防署の協力による本館避難訓練及び旧進藤家住宅の消火訓練を実施しました。

- ・工事1件

郷土博物館学芸員室系統エアコン更新工事

- ・修繕8件

本館浄化槽チェッカープレート交換修繕

民家(旧進藤家住宅)浄化槽蒸発散用排水ポンプ交換修繕

本館浄化槽ろ過ポンプ他交換修繕 ほか

新館エレベータードアスイッチ他交換修繕

- ・消防避難訓練

本館:令和6年9月20日(金)に地震後火災を想定した避難訓練を実施

旧進藤家住宅:令和7年1月30日(木)に火災を想定した避難訓練及び消火訓練を実施

議題（１）令和６年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

1 提案理由

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、博物館の設置及び運営上の望ましい基準第4条においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく35の展望—』（別添資料）に基づき、令和6年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

2 目標値設定の考え方

目標値については、かつては数値目標の設定が難しいと判断し設定していなかったため、感覚的な評価になっていたが、客観的に博物館の運営について評価する必要があるため、35項目にわたる「あるべき姿」すべてに目標値を設置した。

目標値の設定にあたっては、前年に実施した取り組みの成果をもとに設定し、年度ごとに設定するものとする。数値目標が難しい項目については、客観的に評価できる目標値を設定することとする。

3 評価の方法

- ・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の4段階で表示

◎：目標値に対して100%以上の達成率

○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率

△：目標値に対して60%以上80%未満の達成率

×：目標値に対して60%未満の達成率

- ・評価の基準については、7つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30点、○：20点、△：10点、×：0点として活動指標ごとの平均値を出し、A、B、Cの3段階で評価

A：施策の効果が十分に図られている。（24点以上）

B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（24点未満18点以上）

C：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。

（18点未満）

4 令和6年度「そではく35の展望」事業目標値と達成度

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	1件	◎
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	3回	5回	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④	ロビー展示の開催回数	2回	7回	◎
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤	企画展アンケート実施回数	2回	2回	◎
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥	ホームページで資料の公開件数	3件	4件	◎
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦	調査研究を伴う事業の実施回数	2回	2回	◎
	5.調査研究の成果が公開されている。展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件	10件	◎
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。展望⑨	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3件	4件	◎
6項目 ◎6 180点 平均値30点			評価A		
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3回	10回	◎
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件	2件	◎
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均6,500人	6,550人	◎
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬	市民学芸員自主企画展示実施回数	5回	5回	◎
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭	QRコードの活用	1件	1件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。 展望⑮	ミュージアム・フェスティバルのボランティアの延べ人数	180人	187人	◎
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。 展望⑯	講座でのアンケート調査件数	3件	4件	◎
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。 展望⑰	ホームページ更新件数	25回	63回	◎
	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。 展望⑱	図書室利用件数	10件	11件	◎
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。 展望⑲	レファレンス件数	45件	39件	○
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。 展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件	162件	◎
11項目 ◎10 ○1 320点 平均値 29.1点				評価A	
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。 展望㉑	市民学芸員・友の会の会員数	105人	110人	◎
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。 展望㉒	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8回	8回	◎
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。 展望㉓	公民館講座への協力・講師派遣	10件	8件	○
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。 展望㉔	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ55人	延べ70人	◎
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。 展望㉕	他団体との連携事業の実施回数	3回	12回	◎
5項目 ◎4 ○1 140点 平均値 28.0点				評価A	
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。 展望㉖	施設の安全点検の実施回数	12回（月1回）	12回（月1回）	◎
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。 展望㉗	福祉施設見学受け入れ件数	30件	73件	◎

活動目標	あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
(5)安心・安全な施設にする一施設の維持管理と来館者への配慮	3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。 展望⑳	防災訓練の実施回数	年2回 (本館・旧進藤家住宅)	年2回 (本館旧進藤家住宅)	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(6)博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。 展望㉑	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	2回	2回	◎
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。 展望㉒	市民学芸員養成講座実施回数	10回	11回	◎
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。 展望㉓	高齢者学級等への協力回数	1回	1回	◎
3項目 ◎3 90点 平均値30点			評価A		
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばす一自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。 展望㉔	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	3回	◎
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉕	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	7回	◎
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。 展望㉖	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	6回	◎
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。 展望㉗	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎
4項目 ◎4 120点 平均値30点			評価A		

令和6年度評価結果 ※ () は令和4年度

◎ : 33項目 (31項目)、○ : 2項目 (3項目)、△ : 0項目 (1項目)、× : 0項目 (0項目)
7つの活動目標のうち、A評価7、B評価0、C評価0

②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

5 「そではく35の展望」評価結果と令和7年度の目標値

令和6年度の成果をもとに、令和7年度の目標値を設定する。

※令和6年度の目標値の考え方及び目標値を変更するものについて、網掛けにしている

活動目標	あるべき姿	R5年度 評価	R6年度 評価	R7年度 目標値の考え方	目標値
(1)地域の資料を守る－資料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。①	◎	◎	収蔵庫環境調査回数	2回
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。②	◎	◎	収蔵資料の保存修復委託件数	1件
	3.地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。③	◎	◎	資料購入を目的とした市場調査回数	5回
(2)地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。④	◎	◎	ロビー展示の開催回数	5回
	2.市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。⑤	◎	◎	企画展アンケート実施回数	2回
	3.地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。⑥	◎	◎	ホームページで資料の公開件数	4件
	4.地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。⑦	◎	◎	調査研究を伴う事業の実施回数	2回
	5.調査研究の成果が公開されている。⑧	◎	◎	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件
	6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。⑨	◎	◎	講座講師や資料調査の研究者との情報交換	3件
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－	1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。⑩	◎	◎	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	5回
	2.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。⑪	○	◎	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2件
	3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。⑫	◎	◎	企画展・特別展見学者数	1回の見学者平均 6,500人
	4.常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。⑬	○	◎	市民学芸員自主企画展示実施回数	5回
	5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。⑭	◎	◎	QRコードの整備	1件

活動目標	あるべき姿	R5 年度 評価	R6 年度 評価	R7 年度 目標値の考え方	目標値
(3)学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。⑮	◎	◎	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500人
	7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。⑯	△	◎	講座でのアンケート調査件数	3件
	8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。⑰	◎	◎	インスタグラム更新回数	6回
	9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。⑱	◎	◎	図書室利用件数	10件
	10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。⑲	◎	○	レファレンスの回答率	100%
	11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。⑳	◎	◎	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件
(4)地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。㉑	◎	◎	市民学芸員・友の会の会員の会員数	105人
	2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。㉒	◎	◎	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8回
	3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。㉓	◎	○	公民館講座のアンケートによる達成度(満足以上の割合)	80%
	4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。㉔	○	◎	校外学習支援ボランティア(市民学芸員等)参加人数	延べ55人
	5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。㉕	◎	◎	他団体との連携事業の実施回数	3回
(5)安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー	1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。㉖	◎	◎	施設の安全点検の実施回数	12回(月1回)
	2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。㉗	◎	◎	福祉施設見学受け入れ件数	40件
	3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。㉘	◎	◎	防災訓練の実施回数	年2回(本館・旧進藤家住宅)
(6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー	1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。㉙	◎	◎	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	2回

活動目標	あるべき姿	R5 年度 評価	R6 年度 評価	R7 目標値の考え方	目標値
(6)博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。⑳	◎	◎	市民学芸員定例会参加者数(平均)	15人
	3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。㉑	◎	◎	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	1回
(7)博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加	1.館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。㉒	◎	◎	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回
	2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。㉓	◎	◎	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	5回
	3.他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。㉔	◎	◎	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回
	4.館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。㉕	◎	◎	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回

6 今後のスケジュール

令和7年度 7月18日 第1回博物館協議会にて審議
8月27日 教育委員会協議会にて報告
9月 ホームページで公開

令和8年度 現在の「あるべき姿」に基づき点検・評価を実施

令和9年度 「あるべき姿」及び点検・評価内容について見直し作業を実施(令和9年度分)
第2回博物館協議会にて見直し内容の検討・審議

令和10年度 運用(9年度の点検と評価)

7 関連法令

① 博物館法(抄)

(運営の状況に関する評価等)

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深める

とともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

令和6年度「そではく35の展望」の点検と評価

◎目標(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目
 △取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(1) 地域の資料を守る —資料の収集と保管—	そではく35の展望①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後 ・ 収蔵環境調査(7月から11月の間で2回) ①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③酸・アルカリ調査 ④有機酸濃度測定調査 ⑤屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ) <p>結果：事務室でヒメマルカツオブシムシ幼虫1頭捕獲。学芸員室前でヒメマルカツオブシムシ・ジンサンシバンムシ各1頭捕獲。ヒメマルカツオブシムシは旧進藤家住宅・屋外の第5収蔵庫でも捕獲されており、往来に注意との指摘あり・風除室でアリ捕獲(1回目)第2収蔵庫でゴキブリを捕獲(2回目)・第2収蔵庫 酸性傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫内清掃、資料整理実施 ・ 資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施 ・ 第3収蔵庫の空調更新工事を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な管理により適切に保管している。 ・ 環境調査により害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。1回目の調査結果を受けて外部からの往来に注意を払い、2回目では本館内でヒメマルカツオブシムシ・ジンサンシバンムシは捕獲されなかった。 ・ 日常の注意と迅速な処理により、昨年度より本館内での文化財害虫の確認数は減少した。 ・ 資料整理や清掃を行い、資料の現状把握をすることができた。 ・ 資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。 ・ 第3収蔵庫の空調更新工事により、安定した収蔵環境を維持することが可能になった。 <p>【目標値】収蔵庫環境調査回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館の老朽化により資料に影響が及ばないように配慮しなければならない。館内に害虫が侵入する隙間が見られる。 ・ 第2収蔵庫の酸性傾向が続いており、原因も特定できていない。 ・ 資料の館内持ち込み時や人の出入りの際による虫・カビの侵入について、さらなる注意が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。 ・ 大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。 ・ 第2収蔵庫について、フィルム等酸性に傾いた資料の調査を徹底する。 ・ 資料の館内持ち込みルールの見直し。屋外での作業後の手洗い・着替え(特に靴の履き替え)等を徹底する。
	そではく35の展望②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え。 ・ 古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。 ・ 収蔵資料の修復関係 ：旧奈良輪漁組文書修復委託(平成22年度～) 31点実施 830/1, 132点 ：遺跡から出土した鉄製品の劣化を抑えるためのパッキング作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。 ・ 封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。 ・ 入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。 ・ 新収蔵古文書のデータベース化を進めた。 ・ 収蔵資料の修復を行うことにより、次世代に引き継ぐことができた。 ・ 鉄製品の劣化を遅らせる対応を行うことができた。 <p>【目標値】収蔵資料の保存修復委託件数 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。 ・ 新収蔵古文書の活用のための目録が必要。 ・ 限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数に限られる。 ・ 鉄製品のパッキング作業だけでは適切な処理とは言えない。 ・ 第3収蔵庫が余剰スペースがなく、通路に置いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文書の読める作業者の確保 ・ 市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録公開へ向けて作業を進める。 ・ 収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的・継続的に行っていく。 ・ 劣化しやすい近現代文書を中心に、古文書等の収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。 ・ 鉄製品に関しては計画的に科学的な保存処理を行う必要がある。
	そではく35の展望③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄贈・寄託資料の受入れ ：新規寄贈資料件数5件 ・ 寄託から寄贈への移行 0件 ・ 古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 5回、購入0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内外からの寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。 ・ 市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。 <p>【目標値】資料購入を目的とした市場調査回数 目標値3回:実績値5回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料が出てきている。 ・ 返却した目録掲載資料について、現状を把握する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外流出資料については、引き続き調査を行う。 ・ 現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行い、必要に応じ寄贈・寄託の呼びかけをする。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望④	<ul style="list-style-type: none"> 各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。 調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開 <ul style="list-style-type: none"> 企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」開催、図録刊行 企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」開催、図録刊行 『袖ヶ浦市史研究』第22号刊行 散策マップの配布 ロビー展示の開催 6回 <ul style="list-style-type: none"> 博物館実習展示 ロビー展示「あの夏を忘れない」 大風ロビー展示 市民学芸員自主企画ロビー展示 3回 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。 市内に散在する文化財等の情報について、散策マップが活用されている。 過去の企画展の成果品などを活用し、ロビー展示をタイムリーに開催することができた。 <p>【目標値】ロビー展示の開催回数 目標値2回:実績値6回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 来館者の疑問に対しては個別対応となることが多く、専門職員が足りないため、対応が後回しになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料や情報の収集及び整理に努め、わかりやすい情報提供のために解説シートを作成する。 市民学芸員とも連携し、散策マップについて、新たに作成する。
	そではく35の展望⑤	<ul style="list-style-type: none"> 企画展に伴うアンケートの実施 2回 市民学芸員・友の会を会員を対象としたニーズ調査の実施 テーマを設定した調査研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査 古代の植物利用に関する調査 収蔵資料の精査 市民学芸員と協働での企画展調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた 市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。 考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。 企画展「出羽三山」に向けて市民学芸員と協働で実施した調査の成果について、展示で活用することができた。 <p>【目標値】企画展アンケート実施回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 一度も来館したことがない市民へのニーズ調査ができていない。 他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保や継続的に取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し込みフォームを活用し、来館しない市民へのアンケート調査を実施する。 事業のスクラップアンドビルドも検討し、調査研究できる状況を確保する。
	そではく35の展望⑥	<ul style="list-style-type: none"> 博物館ホームページ上で収蔵資料の公開 4件 古文書のデータベース化 1,979件 会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成 収蔵資料の活用・公開 閲覧24件・資料貸与5件・写真資料掲載 許可取り扱い10件 埋蔵文化財ポジフィルムデジタル化準備 1遺跡分 近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。(会計年度任用職員雇用) 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。 埋蔵文化財写真のデジタル化に着手できるよう準備を行った。 資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた資料の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。 ホームページでの資料公開は4件公開することができた。 大塩平八郎の人相書・上総掘り動画・万葉植物園歌碑解説 (2回) <p>【目標値】ホームページでの資料の公開件数 目標値3件:実績値4件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない 所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。 近年受け入れた民具の整理に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。 地域資料の散逸を防ぎ、情報収集につなげるために、多くの人々に情報を提供し、相談・寄贈等呼びかける。 返却した資料の現況調査を行う。 近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員により、データベース作成等台帳を整備していく。 収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。 埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。
	そではく35の展望⑦	<ul style="list-style-type: none"> 企画展開催を目的とし、鳥類に関する調査を行った。 ジュニア学芸員体験と合わせ、袖ヶ浦公園周辺の生物について調査を行った。 袖ヶ浦学として野鳥観察会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥を中心とした袖ヶ浦の自然環境について調査を行うことで情報収集や現状把握ができた。 ジュニア学芸員体験は6年継続して実施し、データを蓄積することができた。 野鳥観察会は、毎年実施することで、新たなデータを蓄積することができた。 <p>【目標値】調査研究を行う事業の実施回数 目標値2回:実績値2回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。 蓄積されたデータについて、公開する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。 野鳥観察会のデータについては令和7年度企画展で活用する。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(2) 地域を探り、発信するー調査研究と成果活用ー	そではく35の展望⑧ 5.調査研究の成果が公開されている。	<ul style="list-style-type: none"> 『袖ヶ浦市史研究』第22号の刊行 ：博物館職員の研究成果発表2件 企画展での調査研究成果公開。 ：企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」 ：企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」 企画展関連事業（展示解説会）による研究成果発表（6回） 袖ヶ浦学による地域研究成果発表。 ：博物館職員の研究成果発表2件 考古学講座の実施による袖ヶ浦の弥生時代についての研究発表。 ：博物館職員の研究成果発表2件 ホームページで調査研究成果の公開4件 	<ul style="list-style-type: none"> 『袖ヶ浦市史研究』第22号の刊行により、袖ヶ浦市をめぐる歴史・自然環境について最新の研究成果を発表することができた。 調査研究の成果を企画展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。 袖ヶ浦学等の講座により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。 <p>【目標値】市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数 目標値2件:実績値6件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。 インターネットやSNS等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。 企画展等の研究成果は単発で終わることが多く、継続した研究体制ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員資格を持つ者を中心に、当市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ヶ浦学での研究発表者を募る。 インターネットやSNS等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。 必要に応じ研究会等を結成し、継続した研究体制を維持する。
	そではく35の展望⑨ 6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができています。	<ul style="list-style-type: none"> 専門研究者による袖ヶ浦市史研究への論考掲載 7人 講座での専門研究者の発表 ：袖ヶ浦学、考古学講座 企画展へ向けた資料調査に係る先進の研究者による助言 博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 ：博物館実習生 1名 専門研究者による継続した資料調査と研究成果公開 ：佐久間家文書の調査 3名 	<ul style="list-style-type: none"> 講座等での講演などを通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。 次代を担う新たな学芸員を育成することができた。 資料閲覧で来館する研究者や袖ヶ浦学の講師等と積極的に交流を試みた。 佐久間家文書の調査については館職員も参加した研究会に発展している。 他の博物館職員とは資料閲覧を中心とした交流・情報交換が継続している。 <p>【目標値】講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数 目標値3件:実績値4件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。 外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料への理解や情報整理を進めておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも袖ヶ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。 袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。
(3) 学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー	そではく35の展望⑩ 1.市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の通史展示（古代・民俗）を部分的に更新した。 調査研究の成果の一環として企画展を開催した。 ロビー展示の実施 6回 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。 <p>【目標値】常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施 目標値3回:実績値9回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示への市民の意向については、把握できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。 アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。
	そではく35の展望⑪ 2..展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。	<ul style="list-style-type: none"> 2回の企画展では、地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。 ：企画展Ⅰ「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」 ：企画展Ⅱ「袖ヶ浦古墳大辞典」 展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。 企画展チラシ・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。 常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。 入館者数 3館合計38,768人 (内訳：本館24,936人、アクアラインなるほど館324人、旧進藤家住宅13,508人) 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展Ⅰは、近年まで使用していたものを多く展示することで、来館者から親近感と共感を得ることができた。 企画展Ⅱは、これまであまり注目されていなかった袖ヶ浦の古墳時代について多くの資料によりその価値を紹介した。 <p>【目標値】企画展・特別展に関連した刊行物の刊行 目標値2件:実績値2件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収集資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。 資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。 昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間をさらに多く設けるように努める。 他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。 昭和から平成といった近い時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しむ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させるように努める。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
	<p>そではく35の展望⑫</p> <p>3.地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料を有効活用し、企画展を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> 企画展 2回 企画展入館者数13,101人 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 企画展Ⅰ 8,471人 企画展Ⅱ 4,630人 企画展・常設展示での収蔵資料活用 3件 ロビー展示 7回 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料を有効活用した企画展の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。 企画展の研究成果を常設展示に活用することができた。 <p>【目標値】企画展・特別展の見学者数 目標値1回の見学者平均6,500人 実績値 6,550人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。 企画展のための資料調査について、十分な時間が取れているとはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要があり、特別展・企画展の準備期間は他の業務との重複について考慮するようにする。 資料調査の時間を意識的に設けるようにする。
<p>(3) 学習・知的交流の拠点になる一展示更新と情報発信</p>	<p>そではく35の展望⑬</p> <p>4.常設展の更新や企画展などについても市民が自らの意志で参画している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員自主企画展示を行った (5回) <ul style="list-style-type: none"> 五月人形展示 (本館) 七夕展示 (本館) 十五夜展示 (旧進藤家住宅) ひな人形展示 (本館・旧進藤家住宅) クリスマス飾り (本館) 企画展「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」に関し、企画展ワーキンググループによる調査・展示作業の活動を行った。 友の会盆栽の会による盆栽展を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 2回 (ミュージアムフェスティバル・秋) 友の会風の会による大凧展示を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。 企画展ワーキンググループは、チームや個人で調査研究を重ね、企画展の開催につなげることができた。 盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。 <p>【目標値】市民学芸員自主企画展示実施回数 目標値5回:実績値5回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 展示・企画ができる市民学芸員に限られ、負担も大きいものとなっている。 定例会やアンケート等により、市民学芸員の自主的な企画について取り上げやすい環境を検討する必要がある。 友の会員について、ミュージアム・フェスティバル以外に展示機会を提供する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員全体会議や定例会などで今後の自主企画について検討する。 市民学芸員フォローアップ研修で企画・展示についての研修を行う等、市民学芸員の育成について充実させる。 ワーキンググループは今後も必要に応じて結成し、活動する。 市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場を充実させる。
	<p>そではく35の展望⑭</p> <p>5.情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 万葉植物園の歌碑にQRコードを設置した。 QRコードの設置について情報を周知するために職場体験の中学生によるロビー展示「万葉植物園で探してみよう」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 万葉植物園の歌碑にQRコードを設置したことにより、多くの利用者により深い情報を提供することができた。 <p>【目標値】QRコードの活用 目標値1件:実績値1件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 展示やホームページに多言語対応ができていない。 視覚障害者への対応ができていない。 館内のインターネット等の電波状況が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> 多言語化については、翻訳機能を活用した英文翻訳を実施したので、早急に活用に向けて整備する。 音声ガイダンス等の導入について調査研究する。 合理的配慮の調査研究を行う。
	<p>そではく35の展望⑮</p> <p>6.未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・フェスティバルを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ミュージアムフェスティバル入場者数 2,740人 講座「袖ヶ浦学」 5回開催 134人 公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。 8回 	<ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦学は地域資料を多く活用し、時節にあったものや話題性のある内容などで、多くの参加者を得た。 公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。 <p>【目標値】ミュージアムフェスティバルのボランティアのべ人数 目標値180人:実績値 187人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 博物館に全く関心がない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。 公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。
	<p>そではく35の展望⑯</p> <p>7.講座内容が市民のニーズを反映したのものとなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画展等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかりサーチした。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。 他の社会教育施設の状況を知ること、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。 <p>【目標値】講座でのアンケート調査件数 目標値3回:実績値4回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは引き続き実施し、講座終了後にアンケートが可能になるようQRコード等を利用する。 公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。 常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠点になる 一展示更新と情報 発信	そではく35の展望⑰ 8.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・ツイッターを利用したPR活動や情報提供。 ：ホームページ更新回数 63回 ・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。 ：新聞・地域紙等への掲載回数 6回 ：ラジオ（かずさFM）の出演回数 14回 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた。 <p>【目標値】ホームページ更新件数 目標値25回:実績値 63回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・かずさFMはリアルタイムでは利用しにくいので館内で試聴できるシステムを検討する。 ・SNSについてはさらなる活用の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。 ・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。 ・SNS等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。
	そではく35の展望⑱ 9.図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料などの貸出サービス 3件 ・図書室での図書閲覧やコピーサービス ・図書室の蔵書を充実し、整理した。 ：図書室利用件数 11件 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。 ・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。 ・博物館の蔵書情報を図書館や総合教育センターと共有することができた。 <p>【目標値】図書室利用件数 目標値10件:実績値11件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・物流ネットワークについては利用が促進されていない。 ・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジンの活用、学校図書館司書と直接情報交換するなど、学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークを活用できる体制を整える。 ・図書室常時開室について検討、計画する。
	そではく35の展望⑲ 10.利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。 レファレンス件数39件 	<ul style="list-style-type: none"> ・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。 ・利用者からの質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。 <p>【目標値】レファレンス件数 目標値45件:実績値39件</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・質問・相談の内容によっては、対応できる職員に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。
	そではく35の展望⑳ 11.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会員は、研修室・体験学習室・図書室等を活用し、グループ活動を行った。 活動件数 162回 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。 <p>【目標値】市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数 目標値130件:実績値162件</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の利用者同士が交流できるスペースがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士が交流できるスペースの設置について、検討する必要がある。
(4) 地域のつながりを活かす一市民参画と地域連携	そではく35の展望㉑ 1.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。 ：市民学芸員 49名 ：博物館友の会 61名 (令和7年3月末現在) ・市民学芸員養成講座の通年開催 11回 ・上総掘り技術伝承研究会への活動支援 ：上総掘り技術伝承研究会員 16名 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。 ・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに5名が市民学芸員となった。 ・市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。 <p>【目標値】市民学芸員・友の会の会員数 目標値105人:実績値110人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員は世代交代が進んでいるが、養成講座終了後に活動できる人材は限られている。 ・実働できる友の会員の固定化や高齢化が進んでいる。 ・新規参加者についても、継続のための工夫が必要。 ・市民学芸員・友の会といった形にこだわらない協力者との新たな協力体制の確立。 ・市民学芸員と友の会員との交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人々が活動に関心を持てるように促す。 ・講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。 ・市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。 ・市民学芸員と友の会員の合同の研修会等を企画する。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー	そではく35の展望⑳	<ul style="list-style-type: none"> 企画展、ロビー展及び関連事業の実施 市民学芸員・友の会との自主企画事業の実施 8回 博物館を拠点として活動している団体による地域貢献 <ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。 友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。 市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力できた。 <p>【目標値】市民学芸員・友の会自主事業実施回数 目標値8回:実績値8回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。 公民館講座への出前は増えているが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館を利用する機関・地域・団体等との連携を博物館がサポートする。 根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形交流センター（根形公民館）といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。 公民館・図書館との連携をさらに促進する。
	そではく35の展望㉑	<ul style="list-style-type: none"> 根形交流センター（根形公民館）との連携を継続して行った。 市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や公民館講座で地域散策を行った。 夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。 公民館との連携の促進 <ul style="list-style-type: none"> 根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座 協力した公民館講座の件数：8件 根形公民館報 原稿提供4回 	<ul style="list-style-type: none"> 根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。 博物館が歴史や文化び拠点であること、情報を集積させている施設であることを印象付けることができた。 市民会館や木更津市の公民館等、公民館の講座等での利用が拡大し、博物館の活動について、さらに多くの市民に周知することができた。 <p>【目標値】公民館講座への協力・講師派遣 目標値10件:実績値8件</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。 地域連携による成果を発信できるように努める。
	そではく35の展望㉒	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3年生、6年生の校外学習支援 <ul style="list-style-type: none"> 11校（3年生7校、6年生4校） ボランティア参加延べ人数 70人 実物資料、教材の貸し出し 7件 教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 6件（小学校6） 小中学生の調べる学習への支援 12件（9件は総合教育センター調べ学習相談会） 教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。 体験学習スタッフとして市民学芸員が活躍することにより世代間交流が実現した。 教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、連携が密になり、学校と博物館の距離が近くなった。 <p>【目標値】校外学習支援ボランティア(市民学芸員等) 目標値延べ55人:実績値延べ70人</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 近年アウトリーチの希望が増加し、職員の負担が増えている。 博物館の情報をこまめに学校に伝達し、教職員とタイムリーに情報交換ができる仕組みができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員もスタッフとして参加しやすいアウトリーチプログラムを構築する。 博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。 メールマガジン等により、確実に博物館の情報を学校へ届ける。
	そではく35の展望㉓	<ul style="list-style-type: none"> 市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 14件（公民館講座含む） 君津地方公立博物館協議会へ参加 <ul style="list-style-type: none"> 研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。 全国博物館大会（長野県）への参加 千葉県博物館協会への参加 千葉県史料保存活用連絡協議会への参加 <ul style="list-style-type: none"> 会報への寄稿 1件 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。 館長が千葉県博物館協会の会長を務めることで、会の中心的な役割をした。 千葉県史料保存活用連絡協議会の会報で企画展 I について詳しく紹介をすることができた。 <p>【目標値】他団体との連携事業の実施回数 目標値3回:実績値12回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業やNPOとの連携が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業やNPO等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(5) 安心・安全な施設にする一施設の維持管理と来館者への配慮一	そではく35の展望②⑥ 1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理がはかられている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な施設、設備の点検の実施 急な故障や破損等の修繕 7件 計画的な修繕工事： 1件 本館浄化槽チェッカープレート交換工事 故障による改修工事：1件 学芸員室系統エアコン更新工事 月1回の安全点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。 【目標値】施設の安全点検の実施回数 目標値12回(月1回):実績値12回	◎	<ul style="list-style-type: none"> 年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生する。 不具合の発生に伴い、事務の対応に時間を有する。 改修計画が立てられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。 展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。
	そではく35の展望②⑦ 2.包摂的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。73件 (707人) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。 【目標値】福祉施設見学受け入れ件数 目標値40件:実績値 73件	◎	<ul style="list-style-type: none"> 館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、以前からの施設的な課題は解消されていない。 障害者の視点で施設を点検する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。 利用者からの要望をリサーチする必要がある。 目隠しをして館内一周するなど障害者の立場での施設点検の実施。
	そではく35の展望②⑧ 3.危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 本館において火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施した。 1回 旧進藤家住宅において避難訓練・消火訓練を実施した。 1回 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練・消火訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。 【目標値】防災訓練の実施回数 目標値年2回(本館・旧進藤家住宅):実績値2回(本館・旧進藤家住宅)	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地震を想定した避難訓練も実施する必要がある。 資料の避難についても訓練に入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな災害を想定した避難訓練を計画的に実施していく。
(6) 博物館の社会的役割を意識する一地域への貢献一	そではく35の展望②⑨ 1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> 夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施 袖ヶ浦公園主催事業への協力 君津地方公立博物館協議会加盟簡及び市原歴史博物館との相互協力 千葉経済大学博物館との相互協力：資料調査、講師派遣 	<ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。 【目標値】袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数 目標値2回:実績値2回	◎	<ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。 近隣博物館とは、今後も更なる協力体制の強化が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。 他機関との連携について、先進事例を調査する。 近隣博物館との連携を進める。
	そではく35の展望③⑩ 2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援 市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアの育成 市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究 フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 3回 山野貝塚ボランティア育成の協力(生涯学習課事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。 市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。 研修に参加することで市民学芸員や山野貝塚ボランティアの向学心を刺激することができた。 【目標値】市民学芸員養成講座実施回数 目標値10回:実績値11回	◎	<ul style="list-style-type: none"> 博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。 研究発表しやすい環境を整える。 企画展開催や報告書刊行など、調査の成果として具体的な目標を掲げる。
	そではく35の展望③⑪ 3.収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者との交流、回想法の試み：高齢者施設の見学受入れ 公民館高齢者学級の見学等受入れ 企画展・常設展による高齢者等の生きがいの創出 	<ul style="list-style-type: none"> 展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。 企画展 I 「出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰」は、高齢者層にとって身近な題材で経験者もいたため博物館も情報を得ることができた。 【目標値】高齢者学級・シニアグループへの協力回数 目標値1回:実績値1回	◎	<ul style="list-style-type: none"> これまで単発的な活動しかできていない。 公民館高齢者学級等との連携がなされていない。 戦争体験等のある高齢者が年々少なくなってきたおり、早急に情報収集する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。 公民館講座との連携や屋外施設を活用した健康講座の実現に向けた情報提供。 戦争体験等についての聞き取りを機会を設けて行う。

活動目標	あるべき姿	令和6年度の取り組み	成果・効果	評価	課題・問題点・改善点	今後の対応
(7) 博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばす—自己研鑽と研修参加—	そではく35の展望⑳	<ul style="list-style-type: none"> ・全国博物館長会議への出席 ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席 ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国博物館長会議に参加して他館の館長と情報を共有し、最新の博物館事情を収集して、博物館運営の参考とすることができた。 ・千葉県博物館協会の会長を務め、すべての会議と研修会に出席して県内の博物館が抱える問題等について最先端の情報を随時入手することができた。 <p>【目標値】国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数 目標値1回:実績値3回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。 ・県博協会長としての会議や連絡が多く、日常業務の負担となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。 ・オンライン会議には積極的に参加する。
	そではく35の展望㉑	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席 ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用連絡協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等に参加し、知見を深めることができた。 <p>【目標値】国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する。 目標値3回:実績値7回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。 ・研修等で得た人脈を活用し、研修後も情報交換等で交流を続けることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。 ・オンライン開催には積極的に参加する。
	そではく35の展望㉒	<ul style="list-style-type: none"> ・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加 ・君津地方社会教育研究会への参加 ・『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿 ・他機関から依頼された講座での講演。 ・『袖ヶ浦市史研究』への掲載を前提とした大学研究者との合同調査・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・君津地方社会教育研究会主催の研修会に参加し、知見を深めるとともに、他市職員と交流し情報を共有することができた。 ・根形公民館地域再発見講座をはじめ、他機関で講演することで、博物館活動の一端を周知させることができた。 <p>【目標値】他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数 目標値1回:実績値6回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。
	そではく35の展望㉓	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県博物館協会・君津地方公立博物館協議会・君津地方社会教育研究会主催の研修会への事務職員の参加 ・その他研修会への事務職員の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会等に参加し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。 <p>【目標値】研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数。 目標値1回:実績値3回</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員の研修の機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する研修会には出席できるようにする。

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
博物館協議会		年3回開催				第1回18日(金)					第2回18日(火)			第3回13日(金)	
博物館運営事業															
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催		第2回実行委員会	7日(土)・8日(日) 第3回実行委員会										
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催		第177回袖ヶ浦学(友の会共催) 20日(日)菱川師宣と歌川広重(講師:笹生浩樹氏)			第178回袖ヶ浦学 23日(土)袖ヶ浦に墜落したB29について(講師:久野一郎氏)				第179回袖ヶ浦学 6日(土)日または13日(土)(仮)		第180回袖ヶ浦学 7日(土)または14日(土)野鳥観察会(講師:大島健夫氏)	第181回袖ヶ浦学 7日(土)または21日(土)中近世の陶磁器について(仮)	
	博物館学芸員実習	7月23日～8月5日(10日間) 5名募集		・大学からの実習依頼文・回答		実習予定表作成・送付 7月23日(火)～8月5日(水)(10日間) 博物館実習	7月23日(水)～8月5日(火)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付					令和8年度要項作成・HP掲載			
	その他					ジュニア学芸員体験講座 27日(日)		考古学講座 ①6日(土)房総の古墳文化について ②27日(土)(仮)房総のはにわについて(講師:萩原恭一氏)		考古学講座 ③3日(月・祝)移動教室(古墳見学・千葉県立房総のむら風土記の丘資料館見学)		考古学講座 ④18日(日)古墳時代の遺跡 市内中六遺跡と美生遺跡群について	考古学講座 ⑤14日(土)移動教室(地中からのメッセージ見学:千葉県立中央博物館)		
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		← 小学校6年生 校外学習								← 小学校3年生 校外学習			
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施													
	その他														
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催			企画展Ⅰ「村のくらしと一大事-江戸時代の事件記録を読む-」 5月3日(土)～7月21日(月・祝) 展示解説会5/1・6/7・12、関連移動講座「明治大学博物館と江戸城周辺散策」5/17、関連講演会「深読みで楽しむ古文書の魅力」(講師:吉田伸之氏)7/19					企画展Ⅱ「鳥をめぐるものがたり」 10月4日(土)～12月14日(日) 展示解説会3回・関連講座・ミニ野鳥写真展				企画展Ⅲ「袖ヶ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康展」3月～4月	
	トピックス展 ミニ展示												ロビー展示「日本の郷土風」		
	旧進藤家住宅				盆栽展(ミュージアムフェスティバル)					盆栽展				ひな人形展示(旧進藤家住宅)	
	万葉植物園	屋外施設の活用													
地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)				環境調査(2回目)			資料燻蒸			
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行 伺い・契約							史料修復成果品納品			
	『市史研究』第22号	編集・刊行													
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日上午活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日上午活動(体験学習室)			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル	10日(木)第1回市民学芸員フォローアップ研修(自然と歴史の散策会と合同)国立科学博物館筑波実験植物園・国土地理院地図の測定の科学館見学						お飾りづくり		22日(日)第2回市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	19日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	10日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	21日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	23日(水)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同)	23日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖!そではく辛口採点会	20日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	11日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	8日(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	20日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	24日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎		22日(日)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業		施設の修繕・工事等													
友の会 8グループ(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)活動		協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	総会			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル			10日(木)第1回自然と歴史の散策会(市民学芸員フォローアップ研修と合同)国立科学博物館筑波実験植物園・国土地理院地図の測定の科学館見学	第1回役員会	第2回自然と歴史の散策会		新春風揚げ大会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会			7日(土)・8日(日) ミュージアム・フェスティバル									
休館日			7日(月)・14日(月)・21日(月)・30日(月)	7日(水)・12日(月)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)	7日(月)・14日(月)・22日(火)・28日(月)	4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)	1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・24日(水)・29日(月)	6日(月)・14日(火)・20日(月)・27日(月)	4日(火)・10日(月)・17日(月)・25日(火)	1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・26日(金)～31日(水)	1日(木)～5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・9日(月)・12日(木)・16日(月)・24日(火)	2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)	

別冊資料

袖ヶ浦市郷土博物館の使命

—そではく 35 の展望—

令和5年3月

袖ヶ浦市郷土博物館

袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 35 の展望—

はじめに

袖ヶ浦市郷土博物館（以下「袖博」という）は、昭和 57 年の開館以来、袖ヶ浦市域はもとより、西上総の歴史・考古・民俗に関する資料を収集・保管・調査研究することで地域の個性や特質を追求し、その成果を展示公開等で情報発信し、「市民とともに歩む」博物館を標榜してきました。

平成 24 年 7 月、開館から 30 年の博物館活動を検証し、袖博が地域博物館として果たすべき役割を 4 つの使命、6 つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして 30 項目のあるべき姿を設定し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 30 の展望—』として、明示・公表し、点検・評価の基準として取り組んできました。

博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、袖博では『そではく 30 の展望』の 10 年の成果を受け、開館 40 周年の節目でもある令和 4 年度に点検・評価内容を確認・修正し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 35 の展望—』を提示しました。袖博が地域博物館として果たす 4 つの使命を遂行するための 7 つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして 35 項目のあるべき姿を設定し、博物館活動の点検と評価の基準とします。

1. 基本目標—ひと・みらい・つながる博物館—

袖博は設立当初から資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及・情報公開などを着実に進めてきました。また、博物館を取り巻く社会情勢をいち早く捉え、学校教育・地域連携・市民活動の活性化と支援を行い、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館を実践してきました。さらに、博物館の社会的存在理由や社会貢献を明確にするための基本理念を基に「使命」を示し、博物館が「使命」を遂行するための 7 つの取り組みである活動目標を展開します。

2. 基本理念—市民と共に歩み、地域の発展に貢献し、愛される博物館—

袖博が市民活動の場となり、より一層「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことを認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会貢献に取り組めます。

3. 使命

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。

(3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

(4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

袖博は、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の4点項目を使命とします。

4. 活動目標

(1)地域の資料を守る ー資料の収集と保管ー

市史編さん事業で収集・管理してきた史料をはじめ、地域資料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、資料の情報・収集にあたります。

(2) 地域を探り、発信する ー調査研究と成果活用ー

地域資料の調査研究を推進して、その価値や歴史的な位置づけを明らかにし、その研究成果を市民の知的財産として公開・活用します。

(3) 学習・知的交流の拠点になるー展示更新と情報発信ー

地域資料を有効に活用した企画展や特別展を計画的に開催するとともに、市民のニーズを考慮した常設展示の更新計画を推進し、利用者の多様な学習意欲に応えます。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、調べ学習や個人研究等の質問・相談に対応できる体制を整えます。

(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー

市民学芸員・友の会員を中心に、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、学びの拠点として地域とつながる博物館を目指します。また、地域の学校と連携し、各種学習プログラムを開発して子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流を促進します。他の社会教育機関・博物館等や地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域連携による新たな価値や経済効果を発見・創造します。

(5) 安心・安全な施設にするー施設の維持管理と来館者への配慮ー

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行って施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てて維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。また、災害・事故に備え、博物館独自の危機管理マニュアルを整備し、定期的に防災訓練を行います。

(6)博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー

常に博物館として地域から求められる役割を意識し、周辺の施設や大学・研究機関等と連携して、立地を生かした魅力的な事業展開を図ります。周辺の遺跡や歴史文化遺産の把握や解明のため、調査等ができるボランティアを育成し、市民と一体となった博物館活動を推進します。また、博物館の持つ収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献できるよう努めます。

(7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー

魅力ある博物館活動推進に向けて、最新の情報を入手し、各自の専門性をより高めるため、職員が研修に参加できる環境を整えるとともに、他機関の学芸員・研究者との交流や研究成果の収集に努め、博物館の業務に還元します。